

# 志高錬成

志を高くもち、よりよい  
成果をえるために、ねばり  
強く、自分を鍛える

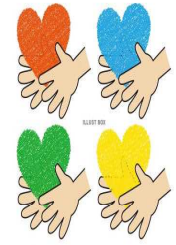
令和3年11月1日（月）  
佐久市立浅科中学校

## 体験学習から、学びました。

10月11日（月）12日（火）を「総合の日」に位置づけ、各学年ごとに様々な体験学習をしました。

1学年では「高齢者疑似体験」「点字体験」「手話体験」など、外部講師の方をお招きし様々な体験学習をしました。

高齢者疑似体験では、装具をつけることにより、いつもできていた「当たり前」のことが、まったくできないことが分かりました。体験することで生徒にとって「気づき」がたくさんあったように思います。「点字体験」「手話体験」では、講師の方の話を熱心に聞き入り、取り組んでいました。



2学年では「ブラウンファーム ちゃたまや」「川西消防署」「近畿日本ツーリスト」の方をお招きし「職」にかかわるお話をしていただきました。「はたらくこと」は、日々のキャリア学習にもつながっています。将来を見通した自分の設計図、また、「はたらくために必要なこと」など、実際に社会で活躍されている方の「生の声」から生徒の心に届いたものがたくさんあったと思います。



## 後期人権同和教育

10月20日（水）より、後期人権月間がはじまりました。校長先生から「いい高校とは？」など生徒と共に考える講話からスタートしました。また、学級での仲間とのコミュニケーションについても考えました。

### 【人権教育講演会】

講師 佐久市立国保浅科総合病院  
副院長 箕輪 隆 様  
演題 「絆 ～大船渡医療支援活動で学んだこと～」

3学年では、佐久大学や佐久市役所高齢者福祉課から講師の方をお招きし、「認知症に関する知識」「杖や車いす等の扱い方」についてお話をお聞きしました。

認知症の方は、さっき昼ごはんを食べたばかりでも「早くご飯が食べたい」といったり「さっき約束したこと」でも、忘れてしまうことがあるようです。どのようにかわっていったらよいのか考えました。車いすについても、どのように使うのがよいのか？相手が安心できるように声がけをしたりすることもひとつの方法と気づくことができました。この体験をこれから「社会」へ巣立つみなさんに何かに役立ててほしいと願っています。



2011年3月11日  
東日本大震災が発生した日です。箕輪先生は、その現場における医療から「人間の無力感」を感じられました。



震災では、多くの尊い命が失われました。被災された方々の前向きに助け合う姿、また、避難所における心温まるお話、たいへん貴重な講話をお聞きすることができました。

震災翌日に被災した地域へ向かう医療スタッフに対する家族や病院の同僚、患者さん、地域の方々の温かい応援、被災地での支援。一方で被災した方々からの協力や応援。温かい『絆』がそこにあったことを教えていただくとともに、万一被災するようなことがあったら、どんな立場であっても積極的ににかかわることができる人になってほしいと願いを語られていました。



現在、復興は進んでいますがまだまだ  
と言われています。  
みなさんの心には、どんなことが印  
象に残りましたか？  
ぜひ、振り返ってみてくだ さい。